



# 京大病院広報

●KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL NEWS●

## 「先端医療機器開発・臨床研究センター」竣工記念式典を開催



テープカット左から 三嶋病院長、塩田理事、永塚近畿経済産業局長、松本総長、内田キヤノン㈱代表取締役社長、門川京都市長、湊医学研究科長



先端医療機器開発・臨床研究センター

本文 2、10ページをご覧ください

## CONTENTS

- ① 「先端医療機器開発・臨床研究センター」竣工にあたって・・・2  
京大病院長、先端医療機器開発・臨床研究センター長／三嶋 理晃
- ② 新任診療科長挨拶 ..... 3  
総合臨床教育・研修センター 医師臨床教育・研修部長／小西 靖彦
- ③ 新しい外来の医師紹介 ..... 3
- ④ 東日本大震災に対する当院の対応状況 ..... 4
- ⑤ 最先端医療シリーズ ..... 7  
「手術支援ロボット(da Vinci)を使った低侵襲性外科治療」  
泌尿器科 教授・診療科長／小川 修
- ⑥ 医療安全管理室だより 第2回 薬剤部 ..... 8  
医療安全管理室長／松村 由美
- ⑦ 院内講演会の紹介 ..... 9  
「今話題の食中毒菌と感染性胃腸炎に対する院内感染対策について」  
感染制御部 看護師長／井川 順子
- ⑧ 読者より ..... 10  
「若い力が原動力 新しい歩み始める京都民医連中央病院」  
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 院長／吉中 丈志
- ⑨ トピックス ..... 10
- ⑩ 名物職員紹介 ..... 12
- ⑪ 各科・部からのメッセージ ..... 13
- ⑫ お知らせ ..... 14

## 次代の医療を担う看護師になる。



〈看護師募集中〉

[URL] <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~wwwkango/>

## 京大病院の基本理念

- (1) 患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する。
- (2) 新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する。
- (3) 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する。

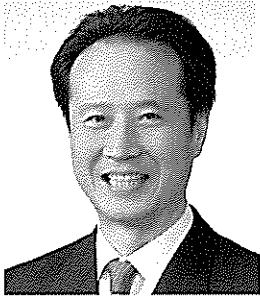
発行 京都大学医学部附属病院広報部会  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54  
[FAX] 075-751-6151 [URL] <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp>

ご意見、ご感想をお待ちしております。また、原稿の投稿も歓迎いたします。

[wwwadmin@kuhp.kyoto-u.ac.jp](mailto:wwwadmin@kuhp.kyoto-u.ac.jp)

## 4 東日本大震災に対する当院の対応状況

福島第一原発への派遣について 救急部長／小池 薫



皆様もご存じのように、福島第一原子力発電所では、多くの作業員が過酷な状況で働いています。この地域全体で働く作業員の数は、第一原発3,000人、第二原発2,000人、広野火力発電所2,000人とされています。この夏、多数の作業員が暑さで倒

れるのではないかと心配され、第一原発内に緊急医療室が作られました。5号機と6号機の前にあることから「5/6号機サービス建屋1階救急医療室」と名付けられたこの施設で、私は平成23年8月5-6日、9月23-24日の計96時間勤務してきましたので報告します。

勤務前夜、第一原発から40km南に位置するいわき市のホテルに宿泊し、当日朝7時、いわき駅発Jビレッジ行きのチャーターバスに乗車する。Jビレッジは1997年に開設された日本サッカー界初のナショナルトレーニングセンターだが、第一原発から20kmの距離にあるため、震災後は原発事故対応の最前線基地となった。Jビレッジ到着後、メディカルセンターを訪問し、東京電力医療班担当者と面談する。電離則健診を受診し、作業員登録と線量計借用手続きを済ませると、布製キャップ、マスク、タイベックスーツ、綿手袋、ゴム手袋、シューズカバーを着用し、バスに乗り込む。第一原発入口ゲートが近づくとフィルター付き全面マスクを装着する。この服装になるだけで夏場は汗が吹き出す。

免震重要棟前にバスが到着すると、吉田 昌郎第一原発所長が常駐する2階作戦本部の医療班ブースに立ち寄る。その後再び車に乗り込むと、10時半に5/6号機救急医療室に到着する。ここでの業務は、1) 熱中症・外傷・急性冠症候群等の救急疾患に対する救急医療の実施、2) 他の軽微な傷病を含めて、救急医療室を受診した患者に対する初期診療の提供、3) 原発外の病院への搬送要否の判断、4) 疾病予防に関する情報収集への協力である。診療対象は東京電力社員

と協会社社員。診療体制は医師1名、サポートの事務担当者1名、放射線管理担当者1名で、看護師はいない。

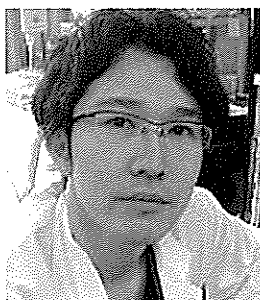
これまで原発内で発生した患者総数や重症度は公表されていないが、受診患者数は1日平均数名以下であった。作業員は早朝から仕事を始めて午後2時に終了し、熱中症の発生は予想よりも少なく、職場の安全管理は一定レベルには維持されているという印象を受けた。原発内に用意された食料はレトルト食品と菓子パンだけで、歯磨きと洗面にはペットボトルの水を利用する。夜は医療室の経過観察ベッドで睡眠を取る。私がJビレッジを出て原発内に48時間滞在し、再度Jビレッジに戻るまでの総被ばく線量は48mmSv、胸部レントゲン写真1枚分程度であった。勤務終了後のホールボディカウンター検査では内部被ばくを認めなかった。

医療室で一緒に働いた2名の男性は、地元で生まれ育ち、この20年間原発で生計をたててきました。しかし、このたびの災害で先祖から受け継いだ家を追われ、家族は遠く知らない土地に移り住みました。しかし彼らは、今もこれからも、第一原発で働かざるを得ません。私は京都に来るまでの5年間、仙台に住んでいました。このたびの震災に際し、東北の人たちは秩序ある行動を取り、世界から驚きの目で称賛されました。東北の人たちは謙虚な心持ち、和を尊ぶあり方を大事にしています。「友情」「おもいやり」の精神を大切に、これからも東北を応援したいと思います。



入口から緊急医療室を臨む

医療支援活動レポート～岩手県立大船渡病院にて～ 循環器内科 医員／佐々木 康博



はじめまして当院循環器内科の佐々木 康博です。

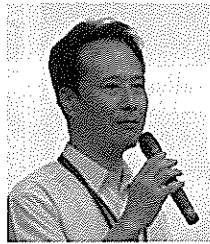
所属する日本心血管インターベンション治療学会からの被災地派遣の要請をうけて岩手県立大船渡病院で5月8日～15日の間、医療支援活動を行いましたのでご報告させていただきます。

大船渡市は岩手県南部の太平洋沿岸に位置する陸前海岸北部の中核を成す街であるとともに、報道等でご存知のように津波の甚大な被害を受けた街でもあります。

現地での活動は循環器内科一般外来と救急外来という外来業務でしたが、一般外来・救急外来ともに受診する患者状況としてはすでに災害後の急性期は過ぎており慢性期に移行している印象でした。多くはストレスのかかる避難所での生活により慢性疾患が悪化した方、かかりつけ医が津波の被害に

## 京都府「緊急被ばく医療初級講座」を開催

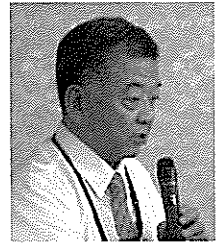
7月30日に、原子力安全研究協会との共催により京都府「緊急被ばく医療初級講座」を京大病院にて開催しました。同研修会は、被ばく患者を本院に受け入れる際に、実診療に従事することが予想される医療関係者への知識の整理・習得、ならびに関係諸機関



開会挨拶を行う小池先生

(消防、行政等)相互の連携を図ることを目的としています。今回の研修会では、学内外から67名の参加がありました。研修会では、小池 薫先生(京大病院初期診療・救急科教授)の開会挨拶の後、又野 秀行先生(福井県立病院救命救急センター)より「放射線とは- 焚き火(被ばく)とペンキ(汚

染)-」について、山本 尚幸先生(原子力安全研究協会研究参与)より「緊急被ばく医療における汚染対応」について、前川 和彦先生(東京大学名誉教授)及び前川 平先生(京大病院輸血細胞治療部教授)より「急性放射線症候群の診断と治療-JCO臨界事故による患者の臨床を経験して-」について講義が行われました。引き続き、小池先生、山本先生を講師として「京都府域の仕組みを理解する- 4つのケース対応-」と題して机上演習が行われ、参加者間で活発に意見交換が行われました。



前川 平先生による講義

## 院内感染対策講習会「みんなで取り組む院内感染対策」を開催

6月6日、「院内感染対策講習会」を開催し、「みんなで取り組む院内感染対策」と題して、当院副病院長(感染対策・医療安全担当)の一山 智先生より講演が行われました。

今年度最初の講習会では、当院において実施される感染対策について学習するものです。院内感染対策は、医師、看護師はもちろん、メディカルスタッフ、事務を含めた病院組織全体での取り組みが不可欠となります。

会場となった臨床第一・第二講堂は、立ち見ができるほど満員となり、職員全体で取り組む院内感染対策の重要性を改めて学習する機会となりました。



満員となった会場の様子

## 医療安全に関する講演会「防ごう!医療事故によるスキントラブル」を開催

医療安全管理活動の一環として、7月6日、「防ごう!医療事故によるスキントラブル」と題した医療安全に関する講演会を開催しました。講演者は、当院褥瘡専従管理者 三富 陽子看護師長です。



講演をされる三富看護師長

当院では、褥瘡対策を徹底し、院内での褥瘡発生率は低下しています。昨年度は、褥瘡対策

チームを立ち上げて8年目で、過去最低率の0.43%を達成しています。

今回の講演会では、医療事故によるスキントラブルを防ぐため、医療事故によるスキントラブル発生の状況を学習し、予防への意識を高める目的で開催されました。

医療の現場に携わる多くの参加者たちは、熱心に講演を聴き、医療事故防止及び職員の意識改革を進めるうえで、大きな意味を持つ充実した講演となりました。

## 10 名物職員紹介

### 形成外科 / 石河 利広 助教



形成外科の石河 利広先生を紹介いたします。形成外科および手の外科の専門医として活躍中でございます。明るく気さくで、形成外科、手の外科に関するたくさんの知識や経験をお持ちで、私を含めた形成外科のみんなから頼りにされ慕われております。

基本的に豪快キャラで、普段はいつも大きな声でおやじギャグを連発し、周りのわれわれをこけさせてくださいます。飲み会では、グラスいらず、皿に日本酒入れて乾杯します。カラオケでは音頭っぽくアレンジされたB'zで大いに盛り上げてくれます。一方繊細な一面もあり、得意料理は「きんぴらごぼう」です。手術のときは、いざ執刀となると、細部に至るまで厳格で、ちょっと怖いかも・・・(某N森医員 T.T;)。

診療や部下の指導は非常に親身で丁寧。常に周囲の雰囲気